



福山市障がい者 総合支援協議会

つうしん

Vol.8

福山市障がい者総合支援協議会は、

「障がいのある人が普通に暮らせる地域づくり」をめざしています！

★“障がい者総合支援協議会”って何？

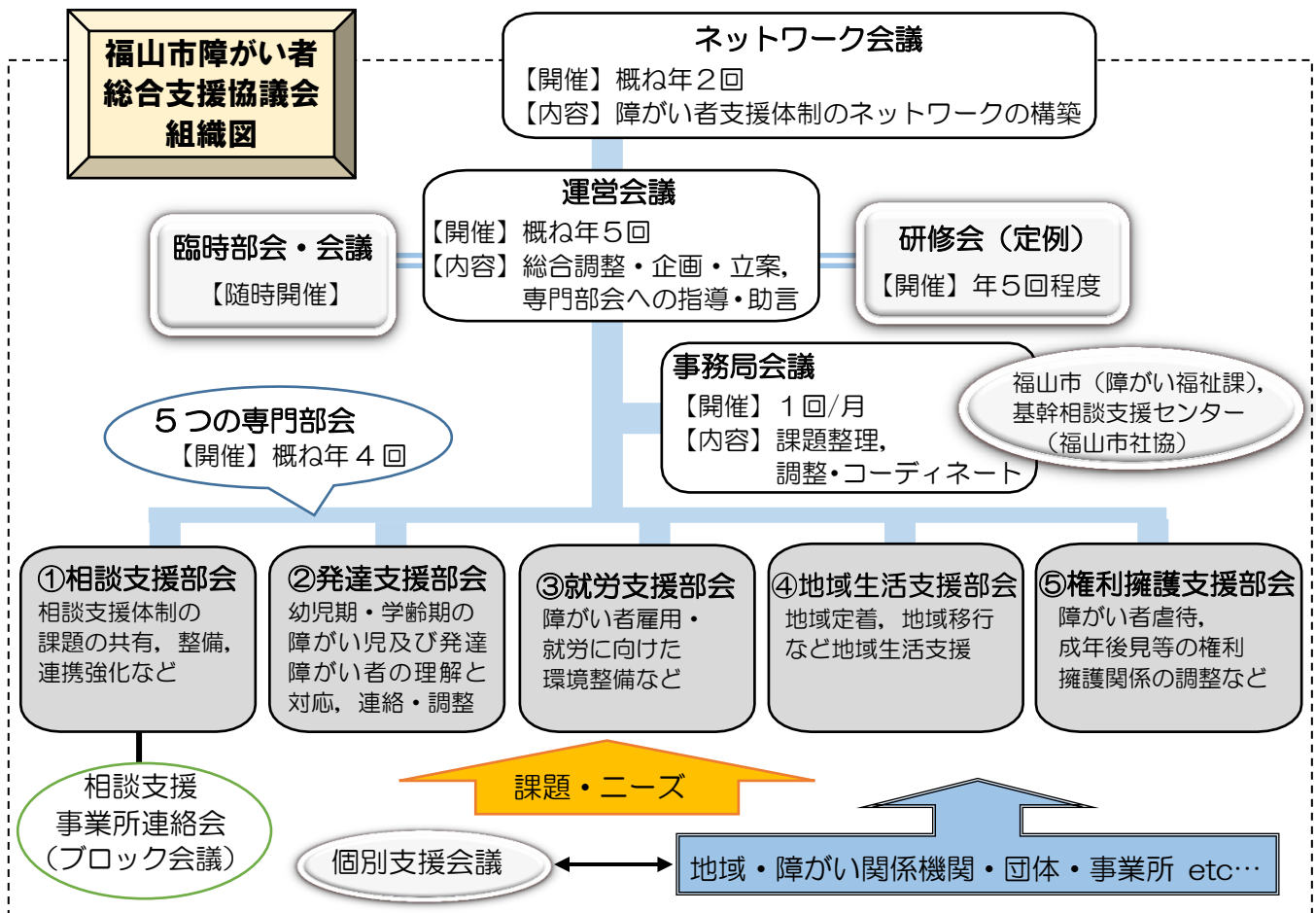
障がい者総合支援協議会は、保健・医療・福祉・教育・就労など多分野多職種の関係者が集まり、障がいのある人の地域生活における課題等を共有し、支援体制の整備と社会資源の改善・開発を行う中核的な役割を果たす場として位置づけられています。

2007年に“福山市障がい者自立支援協議会”が設置され、行政の直営で運営されてきましたが、2013年4月からは、福山市社会福祉協議会が事務局を担当しています。

2015年4月には名称を現在の「福山市障がい者総合支援協議会」に変え、新たな一歩を踏み出しました。

●5つの専門部会で組織されています

福山市障がい者総合支援協議会は、全体をまとめる運営会議を中心に、「相談支援部会」「発達支援部会」「就労支援部会」「地域生活支援部会」「権利擁護支援部会」の5つの専門部会で構成されています。部会ごとのテーマに沿った長期目標・短期目標を定めて、地域の課題解決に向けて取組みを進めています。



2020年度の取り組みを紹介します

運営会議

障がい者総合支援協議会のエンジンとして、協議会の総合調整・企画・立案・専門部会への指導・助言などを行います。

◎運営会議 議長



はやし まこと
林 誠 さん（社会福祉法人 白鷺 理事長）

運営会議では、5つの専門部会の活動を軸に、福山市の障がい者福祉の現状・課題の共有化を図っています。そして、それぞれの部会から抽出された全市的な課題については、部会の横断的な連携により取り組みを推進していきます。最も喫緊の課題である「地域生活支援拠点等の整備」では、一日も早く整備できるよう協議を進めていきたいと思っています。

●新たな取り組みを始めました！ ～「協議シート」の活用～

運営会議での協議を、より効果的なものにするために、今年度から「協議シート」の活用を始めました。「協議シート」とは、各部会の課題等について、運営会議で議論してほしいこと、助言をもらいたいことをまとめたものです。このシートを事務局に提出し、運営会議で議論します。「協議シート」を活用することで、各部会の課題把握や部会間の連携を図っていききたいと考えています。

●ネットワーク会議&研修会 を 開催しました！



■第1回 <<障がい者虐待防止講演会>>

- *日 時：2020年8月20日（木）13時30分～15時
- *テーマ：「虐待につながる不適切な小さな芽に気づきましょう」
- *講 師：福山市障がい福祉課、
福山市障がい者基幹相談支援センター

■第2回 <<研修会>>

- *日 時：2021年3月25日（木）13時30分～15時
- *テーマ：「障がいのある人の『働く』について」
- *講 師：わたなべ ひろちか
渡辺 博愛さん（多機能型事業所 JOB プラスはんど 管理者）

講師の渡辺さんからは“働く”ことを通じて地域とつながり、人生を豊かにすることについて、利用者の視点で考えることの大切さについて熱心にご講演をいただきました。



■ネットワーク会議

研修会終了後に開催し、各専門部会の活動や今後の取り組みについて報告を行いました。

①相談支援部会

相談支援体制における課題の共有、整備、連携強化を行います。
また、相談支援専門員のスキルアップを目的として、研修会等を開催しています。

◇相談支援事業所連絡会（ブロック会議）

相談支援専門員のスキルアップを目的に事例検討や情報交換、地域との繋がりづくりを行います。

㊤相談支援部会 部会長



くが 孝龍 さん

（福山市障がい者基幹相談支援センター 相談支援専門員）

相談支援専門員とは、福祉サービス利用に向けてのプラン作成や福祉サービスを提供する事業所との利用調整する役割だけではなく、その人が住まわれている地域で安心した暮らしができるようにサポートする支援者です。当事者の声を聴き、伝え、その人の一番身近な相談者になれるよう日々頑張っています。

●『ブロック会議』の立ちあげ ～地域と顔の見える関係づくり～



相談支援部会では新たな取り組みとして、これまで「相談支援事業所連絡会」として相談事業所全体が集まり研修・意見交換・事例検討を行っていたものを、『ブロック会議』という形へ変更し、地域と顔の見える関係づくりを始めました。

福山市内を5ブロックに分け、ブロック（地域）ごとの繋がりを強化するために、まずは相談支援専門員同士の繋がりづくりを行い、困った時に相談し合える体制づくりを進めています。

今後はブロックごとに関係機関や団体等との連携体制を構築し、個別課題や地域課題を共有しながら解決案を検討し運営会議へ提案していきます。

●地域生活支援拠点等事業の整備に向けて ～地域で安心して暮らすための体制づくり～

2020年度においては、地域生活支援拠点等事業の整備に向けた課題整理のために、必要な対応と対策などについて検討を行いました。意見交換を重ねる中で、利用者が“安心して生活や相談できる”体制を作ることは、地域住民や我々相談支援専門員の安心にも繋がること。そのために私たちに出来ることは、平時に行う事前準備が大切であるということを確認しました。有事に備えて事前準備・確認を行うことで“みんな”が安心して生活を送ることが出来るよう、今後も引き続き、先を見据えた動きを取るべく意見交換を重ねていきます。



メモ 地域生活支援拠点等とは…



障がい者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えた、居住支援のための機能をもつ場所や体制のことです。居住支援のための主な機能は、①相談、②緊急時の受け入れ・対応、③体験の機会・場、④専門的人材の確保・養成、⑤地域の体制づくりの5つを柱としています。

②発達支援部会

ライフステージにおける繋ぎのための連携や支援体制のシステムづくりをめざしています。

③発達支援部会 部会長



はせがわ たかかず
長谷川 貴一 さん

(社会福祉法人こぶしの村福祉会 草笛学園 園長)

私は療育施設で27年間、障がいのある子どもたちが明るくのびのび、元気な子にと、療育に携わってきました。

当部会が、この子どもたちが自分らしく生きていくための支援体制を作っていくことができるものになればと思っています。子どもたちと保護者と、その応援団をつなぐような社会をめざしていきます。

●『発達支援部会』2020年度の取り組み

障がい児にかかわる医療、教育、保健、福祉、保育関係者等が、長期・短期的に解決すべき地域課題を出し合い、研修の実施、意見・情報交換による共通認識、ライフステージにおける連携や支援体制の充実、システム作りをめざした取り組みを行っております。

当部会が取り上げている地域課題としては、2019年度から引続き、①「引きこもり・不登校」の子どもたち、②「医療的ケアの必要な子どもたち」、③「早期発見・早期療育」の必要性の3つの課題を取り上げ、解決に向けた実行性のある具体的な取り組みについて協議を重ねております。

2020年度は、「早期発見・早期療育」を必要とする子どもたちが幼児期の早い時期から療育の必要性に気づき、円滑に療育につながるための必要な支援体制作りに向けて作業部会を立ち上げ、具体的意見を福山市に発信していくための取り組みを始めました。



●『早期発見・早期療育』作業部会について

福山市の「早期発見・早期療育」の支援体制において、十分な実態把握を行い、不足する社会資源を明らかにし、その中の課題への取り組みについて具体的な意見発信をめざします。そのために、具体的な数値を把握し、現状や実態をまとめていきます。

2020年度においては、各機関の役割や業務内容の確認・業務を行う中で感じる課題について報告、意見交換を行いました。また、福山市の乳幼児期のネットワークについても議論を重ね、各事業の情報や位置関係の修正点等を確認し、ネットワークを見直す作業も行いました。

「子どもの発達相談支援ガイド」を改訂しました

障がい児に携わる地域資源を1冊にまとめた「子どもの発達相談支援ガイド」を改訂し、福山市の関係機関へ配布しました。福山市障がい者総合支援協議会のホームページでも公開していますので、ぜひご活用ください。



③就労支援部会

障がいのある方の「自分らしい働き方」の実現のため、就労系福祉サービスや一般就労との連携を深め、切れ目のない就労支援をめざしています。

☺就労支援部会 部会長



いけだ まさのり
池田 正則 さん（社会福祉法人アンダンテ 理事長）

部会で中心に据えているのは当事者の声を聴くということです。2020年度は新型コロナの影響により開催することができませんでしたが、毎年一般企業やA型・B型事業所で働く障がい者や支援者によるシンポジウムを開催しています。「働く」姿や声から学ぶべきことはとても沢山あります。今後も、障がい者の「働く」について考えていきたいと思っています。

働きたいと思った時

◎東部地域障害者就業・生活支援センター
福山：084-926-3805
府中：0847-46-2636

◎障がい者基幹相談支援センター（加パ-）
084-973-0968

◎福山公共職業安定所（ハ-ワーク福山）
084-923-8609（44#）

◎障がい福祉課
084-928-1208

◎最寄り（もしくは利用中）
の障がい福祉サービス事業所



- 一般就労がしたい。
- 障がい者の雇用に理解のある会社で働きたい。
- どのような会社・福祉サービスがあるか知りたい。



- 将来は一般就労にステップアップしたい。



- 一般就労は難しいが、仕事してみたい。



人生を豊かにするための「働く」について…

就労支援部会では、今年度、「働く」ことに対する意見を広く集める中で、現状の共有、本来あるべき支援について協議を行いました。

コロナ禍により「働く」環境が激変していることや「働く」場における多様性の理解促進について、「働く」ことを考え始めた際に直面する教育・医療・福祉・一般企業の連携について、就労移行支援事業所の減少に伴う課題について様々な立場から、事例を報告いただき課題共有や必要な取り組みなどの提言をおこないました。

障がいのある方の多様な「働きたい」の気持ちを支えるためには、個別ニーズを把握し、必要なタイミングでニーズに沿う機関へつなぐことが大切であることを再確認しました。働くことを通して一人ひとりが輝ける地域社会の実現に向け、分野を超えた連携を今後も深めていきます。

④地域生活支援部会

「誰もが、自分らしく安心して暮らし、社会へ貢献できる地域づくり」を進めるために支援体制の構築に向けて具体的な取り組みを進めています。

㊦ 地域生活支援部会 部会長



うまの いくし
馬野 育次 さん
(馬野神経科クリニック 院長)

地域生活支援部会では、平成27年度に、住まいの場の確保に向けた作業部会を立ち上げ「地域で暮らすこと」を支援する体制づくりに向けて検討を重ねてきました。障がいの種別に関係なく住居確保について配慮の必要な方を支援できる仕組みづくりに向けて、行政・医療・福祉・教育・地域など幅広い分野の委員に関わっていただいで一歩でも前に進んでいきたいと思っています。

●障がいのある人の社会資源ガイド『さまざまな相談窓口』(2020年度版) 作成しました



このガイド(冊子)は、障がいのある方やそのご家族はもちろん、福山市にお住まいの皆様が、自分が使える制度にどんなものがあるか、周りで困っている人がいたらどこに相談したらよいかを分かりやすく整理したものです。例えば、「住居探しに困っているので一緒に考えてほしい。」「障がい者の雇用に理解のある会社で働きたい。」「初めて福祉サービスを利用するので、

どうしたらよいかわからない。」「精神的に辛そうだが、どう関わったら良いか。」といったときに、ここに相談すればその先の相談にもつながっていくような窓口を掲載しています。

今春、『さまざまな相談窓口』を学校、医療機関、市役所、ハローワーク、図書館などに合計1,491部を配布しました。皆様にご活用して頂ければ幸いです。

このガイド(冊子)以外にも、『こんなときどうするの?』、『福山市内で活動されている自助グループ』、『住宅確保・移行に向けて』支援ツールなど、様々なガイド(冊子)を作成し、福山市障がい者総合支援協議会ホームページで公開しています。

障がい理解のための出前講座(無料)のご案内

『こんなときどうするの?』を用いて、障がいの特性や特性に応じた適切な配慮についてお話しします。

↓お問い合わせ・お申込み↓

[事務局] 基幹相談支援センター(クローバー) *連絡先の詳細は8ページへ



⑤権利擁護支援部会

障がい者の権利擁護を推進するため、障がい者虐待防止・障がい者差別の解消・成年後見制度の利用促進等について、取り組みを進めています。

☺権利擁護支援部会 部会長



ねもと としたろう
根本 敏太郎 さん

(福山市身体障害者団体連合会 事務局長)

権利擁護支援部会は、日本が「障害者権利条約」を批准した2014年(平成26年)に設置されて以来、障がい者の権利を擁護し、虐待防止や差別解消の推進・成年後見人制度の周知に努めています。

障がい者に対する偏見を無くし、障がい者も健常者も互いに「共生」できる社会の実現をめざして活動を続けています。

●障がい理解の 啓発チラシ&クリアファイル を学校へ配布しました！

「障がい者週間」に合わせ、12月2日に福山市内の小学校4年生へチラシ&クリアファイルを配布しました。福山市の心“ローズマインド(思いやり・優しさ・助け合いの心)”を大切にし、障がいのある人もない人も安心して生活できる社会をつくるために、「自分にできることは何だろう?」と考える契機にしてもらいたいという思いを込めました。クリアファイルには、障がいのある人に関わるマークと昨年度の入賞ポスターを掲載しました。



★毎年12月3日～12月9日は、「障がい者週間」です。

障がい者の福祉についての関心と理解を深めるとともに、障がい者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的とした週間です。



●『父の言葉』 副部会長

満6歳のころから聴力が徐々に落ちて9歳で全く聞こえなくなった私。親の教育方針で中学校までは地元の普通校で学んだ。父は私に「聞こえなくてかわいそう」とは一言も言わなかった。「聞こえる人と同じように」という親の期待を裏切らないようにと、聞こえるふりや聞こえないことを悟られないように他の人とのコミュニケーションを避けていた。中学校卒業を間近に控えていた時、父から分厚い手紙をもらった。「よく頑張って聞こえる人と同じように義務教育を終える潤美にありがとうと言いたい。もし、お父ちゃんが死んだら聞こえない潤美が女一人でどんなに生きていこうか・・・」。この父の言葉は57年たった今でも私の心から離れない。父の勧めでろう学校高等部理容科へ。そこで聞こえない仲間と出会い、手話と出会った。亡き父に感謝！





質問・ご意見等ありましたら、お気軽にご連絡ください

〈発行〉福山市障がい者総合支援協議会 広報委員会

〈事務局〉福山市障がい者基幹相談支援センター(クローバー)

住 所：福山市三吉町南二丁目11-22 福山すこやかセンター内

T E L：(084) 973-0968 F A X：(084) 926-7111

M a i l：f-shakyo-kikansoudan@apricot.ocn.ne.jp

ホームページを開設しています。ぜひ一度ご覧下さい。

作成した色々な冊子も掲載しています。

<https://www.f-shakyo.net/syogaisyashien/>

福山市障がい者総合支援協議会

